

子どものウェルビーイングとライフアセットに関する研究の動向

中山 直子*¹・Suriyadeo TRIPATHI*²

目的：第21回 IUHPE 世界会議（開催地；タイ・パタヤ）における，子どもの well-being，コミュニティ，life assets（生活（生命）資産）に焦点を当て，研究の動向を概観し報告することである。

方法：子どもの well-being，life assets に関連する報告を基に，シンポジウム・ワークショップや一般口演における各報告の概要と特徴について，当日の報告，抄録の内容や関係する資料に基づきまとめ概観した。

結果：子どもの well-being に関する発表や報告は多岐にわたった。今回注目した life assets プロジェクトは，48項目の知識ベースの評価指標を使用し，それらを5つのメイン要素に分けて青少年のポジティブな力に注目したプログラムとなっていた。継続的な調査では，1）青少年の保護要因としての個人と社会の評価を行うこと，2）コミュニティで利用できる資源を使って life assets を構築する準備をすること，3）コミュニティの活動へ青少年を参加してもらい改善することが提案されていた。また，国家政策のもとに継続的にモニタリングしていくことの重要性が報告されていた。

まとめ：子どもの well-being に関する研究は，家族ベース，学校ベース，地域ベースの取り組みで行われているものが多く，子どもとその保護者のみならず，国家政策のもとに，家族・学校・地域を核とした環境整備が必要であることが示唆された。

〔日健教誌，2014；22(2)：162-170〕

キーワード：子ども，well-being，life assets，第21回 IUHPE 世界会議

I はじめに

世界保健機構（WHO）によると，子どもの好ましい成長は基本的に重要なことである。変化する環境に調和して生きる子どもたちの能力獲得が必要であり，このような子どもたちの成長への支援体制が重要であると，1991年の世界会議の報告書でも述べられている¹⁾。つまり，環境を含めた子どもたちへの健康支援は，最も重視すべき世界的な健康課題の1つである。また，健康の社会的決定要因として，幼少期の成長発達と教育が，その

後の健康に及ぼす要因として，生涯にわたって影響するといわれている²⁾。特に成人の健康の重要な基礎は，胎児期と乳幼児期に形成され，この時期に発育不良であったり愛情不足であったりすると，病気がちになったり，体力や認識力の低下，情緒不安定を招いたりするという。これらのことから，幼少期からの子どもたちへの健康支援とその体制づくりは極めて重要な健康課題である。

Well-being とは，我が国では，安寧，幸福，良好，福利，健康などと翻訳される。しかしながら決定的な訳はなく，「well-being」やウェルビーイングとそのまま表記したり使われていることが多い。さらに，well-being という言葉は，QOL（Quality of Life：生活の質）の目的概念としても位置づけられている³⁾。QOL と言う概念の根幹には，WHO の健康の定義があり，ここでは，「well-

*¹ 聖路加国際大学

*² マヒドン大学

連絡先：中山直子

住所：〒104-0045 東京都中央区築地3-8-5

TEL & FAX：03-6226-6379

E-mail：nnaoko@slcn.ac.jp

being」は「良好な状態」と示され、病気に対立する概念ではなく、生きることや人生といった日々の生活と一体のものとしてとらえられている³⁾。

Life assets とは、「青少年の成長発達のための保護要因のひとつであり、彼らが自分の人生に対処するために、不可欠である。それらは、子どもたちの生命や生活、社会の核心を改善することを助けることができ、そして、社会での免疫と強さを持つことによって、さまざまな影響のある環境の間でも生きることができる⁴⁾。(資料より著者訳)」と報告されている。子どもたちの well-being を考える際に、life assets の概念は重要である。

また、国連の「児童の権利に関する条約」にも well-being が使われている。子どもの健康や取り巻く環境についても様々な分野で子どもの well-being に関する多くの研究がなされてきた。

国際機関であるユニセフの Innocenti Research Centre では、OECD 加盟国における子どもの幸福度について well-being を 6 つの側面からとらえ比較している^{5,6)}。6 つの側面とは、『material well-being；物質的な豊かさ』、『health and safety；健康と安全』、『education；教育的な豊かさ』、『peer and family relationships；家族と友人関係』、『behaviours and risks；行動様式とリスク』、『young people's own subjective sense of well-being；子ども自身が主観的に判断した豊かさ』である。この報告書は子どもの権利の保障がどのように行われているかを観察し比較するために作成されたものである。しかしながら、これらの報告は、OECD に加盟する先進経済諸国による子どもの権利や幸福度の状況であり、日本以外のアジアの国々などとは比較できない。

第21回 IUHPE 世界会議（以下、21st IUHPE と略す）においては、アジアを含めた各国より、学校や地域をベースとした子どもの健康に関する発表が数多くみられた。

そこで、本報告では、21st IUHPE における子どもの健康、特に well-being、コミュニティ、life assets に焦点を当てて内容を整理し、子どもの

well-being に関する研究の動向と今後の課題を探ることを本報告の目的とした。

II 方法

21st IUHPE における子どもの well-being、life assets に関連する報告を基に、シンポジウム・ワークショップや一般口演における各報告の概要と特徴について、当日の報告、抄録の内容や関係する資料に基づきまとめ概観した。また後日研究者へ問い合わせた結果なども含め、まとめる。当日の発表者や演題名については、別途表2の通りである。

III 結果

1. 子どもの健康への投資とユニセフの取り組み

2日目の午前中のシンポジウムでは、「ヘルスプロモーション・システムにどのくらい投資できるか？」をテーマにユニセフの Knippenberg より、子どもの幸せや健康について、ヘルスプロモーション・システムのための投資のケースとして、家族とコミュニティをベースにした子どもの健康や栄養に関する取り組みについて報告された。新しい社会基準を構築するためのコミュニティ・ベースのプロモーションは、効果的で公正な戦略として注目され、以下のような、新しいアプローチへの転換がコミュニティ・アプローチでは必要であると述べた。つまり、1) 新しいアプローチとして衛生環境を整えるだけではなく、社会基準を変えること、2) 個人や家族だけではなく、社会とコミュニティ・ベースとすること、3) 健康へのメッセージではなく、経済・社会・健康への視点を持つこと、4) トップダウンからコミュニティ主導へ、5) 啓発活動だけではなく参加させること、6) 技術からコミュニティのキャパシティにあう技術、7) 助成金ではなく、報酬へ、などである。また、子どもの幸せや子どもの健康について、投資に見合っているのかどうかや、投資した効果について考えると、予防活動に力入れることになる述べた。つまり、ヘルスプロモ-

ション・システムには、効果的な環境で需要と供給や質のバランスをとるべきであり、さらに国家施策や予算だけではなく、それらをモニタリングすることが重要であることが示された。モニタリングをすることによって、予算を増やし、政策として実行し分散化すること、コミュニティへサービスを提供することにつながったという。

2. 子どもの健康に関するシンポジウムやワークショップの動向

子どもの健康に関連する内容を扱うシンポジウムやワークショップについては、8月26日は4つ、27日は4つ、28日に1つみられた。テーマとしては、学校をベースとしたヘルスプロモーションに関するシンポジウムが3つ、コミュニティをベースにしたヘルスプロモーションに関するシンポジウムが2つ、そのほか、青少年とのパートナーシップ構築に関するもの、ヘルスリテラシーと健康教育に関するものなどであった。

学校におけるヘルスプロモーションとしては、Gardnerらにより、持続可能な学校におけるヘルスプロモーションについて、香港の成功事例のほか、台湾やタイ、オーストラリアのメルボルンの事例をもとに議論された。内容としては、学校におけるヘルスプロモーションと教育の対話や、学校におけるヘルスプロモーションのガイドライン、科学的根拠に基づいた実践の資料をもとに、どのようにヘルスプロモーションと教育がリンクしていくかや、それらの戦略に関するプロセスやマネジメント、実施、責任の所在についてのものであった。

Tsangらのシンポジウムでは、中国と台湾における学校保健の取り組みについて、中国の地方の小中学生に対する栄養の知識に関する教育プログラムの影響と評価、結核に対する知識に関する健康教育のほか、台湾における体重コントロールプログラム、いじめと健康に関連する調査などを各シンポジストが発表した。それらの健康教育プログラムを通して、青少年が健康に関連する行動のプロセスにおける意思決定を助長し、学校健康

教育のプログラムで子どもたちがより健康になるための行動を身につけられるようにするために、発展させることの重要性を提案した。

Aggaard-Hansenらは、2型糖尿病や心疾患といったNon-Communicable Diseases（非感染性疾患）から、これからの子どもたちの将来の健康を守るために、ヘルスプロモーションの新しいアプローチ方法として、学校ベースのヘルスプロモーションと地域コミュニティをベースとしたヘルスプロモーションに関するシンポジウムが行われた。

そのほかとして、Osborneらは、「子どもたちのヘルスリテラシーと健康教育－国際的な緊急事態」というタイトルでシンポジウムを行った。各シンポジストより、台湾やオランダ、イギリスにおける子どもたちのヘルスリテラシーの測定と信頼性について報告された。その中で、Liuは、台湾において開発された40問3領域からなる「Taiwan Children Health Literacy Test」について報告した。これらのテストは、広く受け入れられ、簡便で信頼できるものとして、国民の健康教育ガイドラインに基づいて、学校健康教育プログラムの実施の際に使用されているとのことであった。また、Sijthoffらは、児童の身体活動に関する自己効力感を高めるための学校と家庭における協働のプログラムについて報告した。学校での学びだけではなく、家庭の日常生活の中で実行可能な身体活動のアイデアが用いられ、学校・家庭・地域において実施される身体活動が、児童の健康とwell-beingに影響することが示された。Thomas氏は、学校でのヘルスリテラシー・プログラムの開発・実行・継続というテーマでイギリスの小学校における取り組みについて報告した。身体的・精神的なwell-beingだけではなく、児童の声を聞くことと、個人のスキルとして、自己への自信やセルフ・エスティームを身につけさせることが重要であると述べた。また、そのために必要なことは、国ベースの最良のシステムが必要であること、児童だけではなく教師や両親にも児童のwell-beingや健康に関する適切な理解につながる情報などを提供す

る必要があるとも報告された。

ワークショップでは、Assets Based Model を用いて子どもたちの参加をもとに発展、適用、評価されるアプローチと「Life Assets Program」に関するものがみられた。life assets については次項にて詳細に述べる。

3. Life assets と Positive Youth Development

今回注目したいのは、「life assets」プログラムである。これらは、Thai Health Promotion Foundation のサポートを受け、マヒドン大学 (National Institute for Child and Family Development, Mahidol University) の Tripathi 氏らが中心となって展開しており、2007年より開始されたプロジェクトである。「life assets」については、「生命 (生活) の資産」などと訳されることもあるが、本稿では訳さずにそのまま、「life assets」として使用し表記する。

Life assets のプロジェクトチームには、Dekplus Team というプロジェクト名とロゴがあり、ロゴに使われている色や言葉にはそれぞれの意味がある (図1)⁷⁾。プロジェクトチームでは、タイの青少年の life assets のデータ管理と発展、国家レベルでの life assets のデータベースを作成し、青少年のポジティブな成長を支えるための活動をしている。これらの知識ベースのモデルは、家族ベース、学校ベース、コミュニティ・ベースの3つのモデルを通して、国家政策として開始されている。



- yellow** is the color of the mind and the intellect. It is optimistic and cheerful.
- Blue** is the color of trust and peace. It can suggest loyalty and integrity as well as conservatism and frugidity.
- one eye** show PLUS signal meaning positive mindset with 4 power of surrounding and positive mind to self too.
- Dek** is a Thai language means KIDS, while PLUS is a signal to positive power.
- face** expression indicates Happiness life with smiling and peaceful mind.

図1 Dekplus (Life Assets Positive Development 2013, p11より引用)

Life assets の3つのキーコンセプトとしては、

- 1) life assets は、生命 (生活) を変えること、
- 2) 子どもからの声を聞くこと、
- 3) 青少年のために働いている人々と良いシステムと参加しやすい環境を作ることである。つまり、もし子どもの生活を変えたいのならば、子どもたちはポジティブな力を使わなければならない。それぞれの問題がポジティブな力で解決できたら、すべての問題の側面は解決され、ポジティブな思考能力が作られると示されている。また、子どもたちの話や意見をうまく傾聴する役割は、学習の共有と子どもたちのもつ障害や問題を把握することにつながり、障害や問題に対して建設的に分析するスキルや取り組むスキルを身につけることができるようになる。

そのため、Dekplus は、青少年のための life assets のための調査ツールを開発した。それらは、現在48の調査項目 (4件法: Always/Extremely Agree=3, Frequently/Agree=2, Sometimes/Unsure=1, Never/Disagree=0) があり、この回答をスコア化して、各設問に対するトータルのスコアを算出し、回答者数に各質問の最高得点である3を乗算した数字でかつ除算して、各設問の%を算出した⁸⁾。

また、48項目の設問は、5つのメイン要素に分けられている (表1)。1つ目は、自分自身の力 (Power of Self)、2つ目は、家族の力 (Power of the Family)、3つ目は、知恵の力 (Power of Wisdom)、4つ目は、地域の力 (Power of Community)、最後に、仲間や創造的な活動の力 (Power of Peer (creative Activity)) に分けられている (図2)。これらは、自分自身の力を中心に、それぞれの要素が関連して、お互いに影響する地域をベースとしたモデルとなっている。調査票のほかにも、調査のガイドラインが作られており、調査のプロセス、スコア化の仕方、評価方法まで記載されており、各地域での調査に利用できるようになって⁸⁾。

本会議では、この調査ツールを使った調査結果については、Youth Health Development のセッ

表1 Life Assets 調査項目

基本属性	性別, 年齢, 宗教, 家族構成, 所属する学校, 教育歴
自分自身の力 (Power of Self) 15項目	人を助けることがとても貴重である
	社会平等のためのプロモーション
	自分の意見を言うこと
	いつも事実を話す
	自分のすることに責任を持つ
	よい行動をとる
	行動する前に計画と意思決定をする
	他人に関心を持つ
	異なる意見の人とも良い関係を持つ
	危険行動はとらない
	感情よりも知性によって解決しようとする
	怒ったり葛藤したりする自分の感情をコントロールできる
	自分の価値を信じる
	明確な人生のゴールをもつ
	自分の人生に満足している
家族の力 (Power of the Family) 8項目	家族からのサポートを受けている
	適切に保護者に相談している
	保護者は学習するために助けてサポートしてくれる
	家族という間安全で幸せを感じる
	家族と明確なルールと規制, 理由と監視がある
	保護者は私の良いモデルである
	保護者は私のやりたいことを応援してくれる
	メディアについて学んだことを家族と話すことができる
知恵の力 (Power of Wisdom) 11項目	学校で勉強するときに学生をサポートや助けをする
	学校は安全であると感じる
	学校では明確なルールと規制, 理由と監視がある
	先生は私のやりたいことを応援してくれる
	よい成績を取りたいときほかの人と共有する
	勉強するために注意を払う
	毎日宿題か復習をする
	学校が好き
	定期的に読書をする
	コミュニティの知恵や文化に熱心
	メディアについて学んだことを先生と話すことができる
地域の力 (Power of Community) 6項目	よいモデルである親友がいて, 私により行動をするように説得してくれる
	創造的な活動を定期的に行っている
	定期的に運動を行っている
	定期的に宗教活動などに参加した
	友人と私は良い行動をとるように言われる
	友人と私は創造的なメディア活動に参加するチャンスがある
仲間や創造的な活動の力 (Power of Peer (creative Activity)) 8項目	保護者以外に相談する大人がいる
	近所に注意を払ってくれる人がいる
	地域の人は, 子どもたちを評価してくれる
	地域のための役立つ仕事を引き受ける
	地域で定期的にボランティア活動に参加した
	地域にいと暖かく幸せを感じる
	子どもたちの行動を観察したり世話をしてくれる隣人がいる
	保護者以外の良いモデルの大人がいる

※ Suriyadeo Tripathi et al. under National Institute for Child and Family Development Mahidol University Thailand. User Guide on Life Assets (2011) より, 著者要約作成

Figure Show; A Positive Navigator
Life Asset Positive Model
Strengthen the Community



図2 Life assets とポジティブモデル (Life assets positive development 2013, p45より引用)

ションで, Sungthong らから, タイの3つの南部地域の青少年の life assets に関するものが報告された。調査対象は, 12~25歳の13,800人のタイの青少年であった (男子36.9%, 女子63.1%)。

結果として, 「家族の力」が最も強く, 「地域の力」が最も弱いという結果 (70.9%) であり, 平均は, 80.1%であった。弱点とみられた結果は, 特に「自分自身の力」では, 感情をコントロールする力が弱く (68.7%), 「家族の力」ではメディアリテラシーが弱く (69.5%), 「知恵の力」においてもメディアリテラシーが弱い結果であった (66.3%)。 「仲間や創造的な活動の力」においては, 創造的な活動への参加が弱い結果であった (72%)。 「地域の力」においては, 意味のある参加が弱い結果であった (67.7%)。

これらの結果から, life assets を促進するために, 様々な問題の影響を受けているものの, ポジティブな青少年の成長のためのタイ南部地域では, 学習によって青少年のライフスタイルを整えることができること, また, life assets を含むタイ南部のローカルなライフスタイルや文化や環境を維持した国家戦略と方針が最も効果的であることが報告された。

また, Sathirapanya らから, 同じく南部地域における青少年の life assets についての調査が報告

された。対象は, 南部地域の5つの行政区で15の地方行政機関の青少年5,120人 (男子33.3%, 女子66.7%) であった。

結果として, 家族の力は78.3%, 知恵の力は74.2%, 「仲間や創造的な活動の力」は, 70.6%, 「自分自身の力」は67.8%, 「地域の力」は64.5%であった。もっとも弱い5つの項目は, コミュニティで公的な関心のある活動に定期的に参加する (62.3%), 子どもたちの行動を観察したり世話をしてくれる隣人がいる (64.5%), 先生と定期的にメディア (例えばラジオ, テレビなど) についての記事について見解を交換することができる (64.8%), 怒ったり葛藤したりする自分の状況をコントロールできる (67.6%), 常に真実を話すようにしているが, 時々難しい (67.9%) であった。

Tripathi らは, タイの青少年についての全国調査である Positive Youth Survey の2009年と2012年の結果を報告した。調査の対象は12~25歳の青少年6,940人で, 2009年と2012年にそれぞれタイの10行政区からランダムに選択され, そのうち分析対象は4,685人であった。

トータルのスコアの結果は, 2009年は67.9%, 2012年は69.7%であった。「家族の力」が最も強く, 「地域の力」が最も弱い結果であった。60%よりも低いものは, 「学校におけるメディアリテラシー」, 「ボランティア活動」, 「地域活動への参加」, 「自分への自信」, 「民族の知恵」, 「文化リテラシー」, 「学ぶための約束」, 「地域の思いやり」, 「ストレスへの対処」であった。2009年と2012年の結果を比較すると, 改善が見られており, これらの結果から以下の3点が提案された。1) 青少年の生活をベースとした重要な保護要因として, 個人と社会の評価を継続的に行うこと, 2) 彼らのコミュニティで利用できる資源を使って, life assets を構築するための計画を準備すること, 3) 全てのコミュニティ活動へ, 青少年の参加と学習を巻き込んで改善すること, である。

Life assets については, 2013年にリーフレットやブックレットを英語版でも作成し配布している

ようである。これらの指標を使って、子どもたちの life assets を測定し、弱点とみられる所への介入・教育を行い、モニタリングしていく仕組みとなっている。

IV 考 察

実際に参加し、直接話を聞いたものは限られた。しかしながら、今回21st IUHPEに参加して、各地域や国レベルでの環境の違いこそあるものの、子どもたちの健康に対する投資の必要性については、共通していることが再確認できた。また、それぞれの国でアプローチの仕方など工夫されてはいるものの、家族ベース、学校ベース、地域ベースでの取り組みの必要性のほか、「対象である子ども自身の声を聞くこと」や、「子ども自身に参加させることの重要性」については、共通している課題であることも再確認できた。いずれも、子どものヘルスプロモーションを推進していくために取り組んでいくべきであろう今後の課題である。

特に今回注目した life assets プロジェクトについては、子どもたちのポジティブな成長に焦点を当てた質問紙調査のほか、life assets の介入のための家庭モデル、学校モデル、地域モデルとして活動の枠組みも示されていた。今後地域や学校における子どもたちの健康や well-being に関する調査研究の際は、それらの枠組みを参考に検討することもできるだろう。

今回、実際の介入や教育プログラムとしての取り組みについての発表に関する情報を収集することが少なかった。今後はそれぞれの現場レベルでの実践や介入などについても情報収集をする必要がある。さらに、日本における子どもの健康や well-being に関する研究や実践などの取り組みの状況なども発信していくことが期待される。

V まとめ

21st IUHPE では子どもの健康に関するセッション

は数多く見られた。Well-being や QOL, life assets, ライフスキルなど似たような概念のほか、子どもの健康に関連する個人要因、環境要因を含めて整理していくことが必要であろう。

また、それらに基づいて、子どもたちのヘルスプロモーションを推進し、それぞれを活用しながら、実践に活かしていくことが重要である。

利益相反

利益相反に相当する事項はない。

文 献

- 1) Summary Records of Committees and Ministerial Round Tables Reports of Committees, Fifty-second World Health Assembly. 1999; 3: 160-162.
- 2) 特定非営利活動法人 健康都市推進会議. 健康の社会的決定要因 確かな事実の探求. 第二版. 東京: 特定非営利活動法人 健康都市推進会議; 2004. 14-15.
- 3) 木村直子. 子どものウェルビーイングとは: 現代のエスプリ. 2005; 453: 31-39.
- 4) Tripathi S, Dekplus team. Life assets positive development. Thailand: APPA Printing Group; 2013. 27.
- 5) UNICEF Innocenti Research Centre. Child poverty in perspective: an overview of child well-being in rich countries. A comprehensive assessment of the lives and well-being of children and adolescents in the economically advanced nations. http://www.unicef-irc.org/publications/pdf/rc7_eng.pdf (2014年2月10日にアクセス)
- 6) 国立教育政策研究所. 先進国における子どもの幸せ. http://www.unicef.or.jp/library/pdf/lab0_rc7.pdf (2014年2月10日にアクセス).
- 7) Tripathi S, Dekplus team. Life assets positive development. Thailand: APPA Printing Group; 2013. 11.
- 8) Dekplus. User guide on life assets inventory. Thailand: APPA Printing Group; 2011. 26-27.

(受付 2014.3.11.; 受理 2014.4.22.)

表2 本文中で紹介した演題リスト

発 表 者	演 題
Knippenberg R	An investment case for Health Promotion Systems: why invest, what to invest in and how to optimize returns on investment.
Gardner B, Lee A, Ollis D. et al	Health in the school Setting: Making it relevant and sustainable.
Tsang K, Huang SY	School health in the crossstrait regions.
Aagaard-Hansen J	New approaches to health promotion among children in the family and local community settings.
Osborne R, Hsing Liu C, Sijthoff H, et al	Health literacy and health education in children – The international imperative.
Liu C, Wang C, Osborne R, et al	Development and implementation of the National Taiwan Children Health Literacy Test.
Sijthoff E, Thomas M, Young I, et al	Health literacy in realistic practice for every school child, every day!.
Thomas M, Young I, Sijthoff E, et al	Developing, implementing and sustaining health literacy programmes in schools.
Sungthong P, Salajun S, Tripathi S	A study of the Life Assets (Positive Youth Development) of Thai youth in the three southern border provinces.
Sathirapanya C	Life Assets of children and youth in the southern region.
Tripathi S, Sungthong P, Salajun S	Trend in Life Assets from the national survey of positive youth development in Thai adolescents among 2009 and 2012.

A review of studies on children's well-being and life assets

Naoko NAKAYAMA^{*1}, Suriyadeo TRIPATHI^{*2}

Abstract

Objective: The purpose of this article was to review the reported studies at the 21st IUHPE World Conference which focused on children's well-being, community and life assets (Tripathi. S et al).

Methods: Studies on children's well-being, community and life assets were selectively reviewed from the symposiums and workshops, oral and poster session, and other sessions of this conference.

Results: The presentations and reports related to children's well-being were reported from many different aspects. We paid more attention to the life assets projects which used the knowledge-based evaluation index of 48 items and focused on five essential factors of the youth's positive power. Then, three proposals were suggested to improve the youth's life assets: 1) evaluate individual and social factors as the protective factors of the youth; 2) set up a plan to build the youth's life assets by using available community resources; 3) improve the community activities for the youth. Furthermore, the importance of the monitoring role of the relevant national policies was also reported.

Conclusion: The children's well-being demands multi-sectoral action based on family, school and community. Thus, it is necessary to develop for the advisable environment on the point of the family, school and community.

[JJHEP, 2014 : 22(2) : 162-170]

Key words: children, well-being, life assets, 21st IUHPE world conference

^{*1} St. Luke International University

^{*2} National Institute for Child and Family Development, Mahidol University Thailand